

第3回 昭和女子大学近代文化研究所
公開シンポジウム

ヤマトタケル 敗者の 形象

報告1

大御葬歌—哀惜と畏怖—
鳥谷知子(昭和女子大学教授)

報告2

神への「言向け」
松田 浩(フェリス女学院大学教授)

報告3

近代のヤマトタケル像
三浦佑之(千葉大学名誉教授)

総括

ヤマトタケル伝承の言葉
須永哲矢(昭和女子大学准教授)



作画:早川 陽

8 / 5 2023
土

日時 2023年8月5日(土) 13:30~16:00(開場13:00)

場所 昭和女子大学8号館6階 コスモスホール
東京都世田谷区太子堂1丁目7-57

参加費 無料

参加申込方法 下記 URL、電話または
QRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/5vVC1sHJinNqxHhM9>

03-3411-5129

申込締切日 8月3日(木)13:00



お問い合わせ 昭和女子大学近代文化研究所
電話:03-3411-5129 Mail:kinbun-admi@swu.ac.jp

第3回 昭和女子大学近代文化研究所 公開シンポジウム

ヤマトタケル - 敗者の形象 -

2023年8月5日(土) 13:30~16:00(開場13:00)
昭和女子大学8号館6階 コスモスホール



ヤマトタケルは様々な観点からアプローチが可能であり、絵画、歌舞伎などの芸術、近代文学などの多くの作品の題材となってきた。その素材の源流は、日本最古の古典『古事記』にあり、光輝と陰影に富む物語は享受者のヤマトタケル像を造形しうるのである。

近代文化研究所では、『ブックレット 近代文化研究叢書 16『古事記』にみる敗者の形象』刊行を契機とし、シンポジウムを企画し、パネリストと参加者に議論の場を提供し、ヤマトタケル像に迫りたい。今なお日本人の心に根ざすヤマトタケルの魅力について、それが奈辺に位置するのか掘り下げる。

ヤマトタケルは景行天皇の命により西征東征に尽瘁し、天皇家の版図を画定するが、伊弉岐能山の神に言挙げをして散々に打ちめられ、彷徨の末に能煩野で亡くなる。圧倒的な力を有したが故に、父帝に「建く荒き情」を恐れられ、荒ぶる神やまつろわぬ人等を平定する名目で都から追放される。西征はたった一人で敵地に乗り込む。少女と見まごう美しさに熊曾建兄弟は心をとろかし、油断した隙を突かれ倒される。景行天皇の威光を背負って誇らしげに名乗りを上げたヤマトヲグナは、さらに東征を命じられ父帝が自分の死を望んでいることに気付く。西征の華々しさは一転し、絶対的な父帝との葛藤や、住み慣れた倭を追放され流離を余儀なくされた孤独な主人公像が形成される。走水で愛する弟橘比売を失う苦難に遇っても、ヤマトタケルは己に課せられた役割を放棄せず、力の限り戦うのである。体制から疎外された敗者こそ、時代を超えて人間の心に生き残る様々な要素を兼ね備えている。

本シンポジウムでは、近代文化研究所の烏谷知子は「大御葬歌」を中心に、フェリス女学院大学教授松田浩氏に神への「言向け」を中心に、千葉大学名誉教授三浦佑之氏に近代国家が求めたヤマトタケル像について、それぞれの見解を述べてもらい、所員研究員の須永哲矢は国語教科書に採用されるヤマトタケル伝承を言葉からアプローチし、総括をする。太安万侶没後 1300 年を迎えた今年、本シンポジウムが『古事記』に近づく新たな契機となり、ヤマトタケルについて今後の課題が提起されることを望む。

プログラム

- 報告1** 大御葬歌－哀惜と畏怖－
烏谷知子(昭和女子大学教授)
- 報告2** 神への「言向け」
松田 浩(フェリス女学院大学教授)
- 報告3** 近代のヤマトタケル像
三浦佑之(千葉大学名誉教授)
- 総括** ヤマトタケル伝承の言葉
須永哲矢(昭和女子大学准教授)

参加申込方法

下記 URL、電話または QR コードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/5vVC1sHJinNqxHhM9>

03-3411-5129

申込締切日
8月3日(木) 13:00

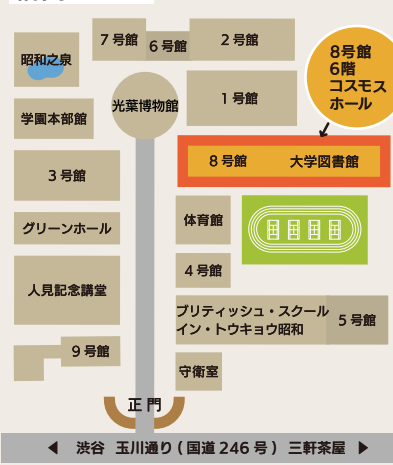


アクセス

地下鉄 ・東急田園都市線(半蔵門線直通)「三軒茶屋」駅 下車 徒歩 7 分

- バ ス ・渋谷駅から：下記方面を利用し「昭和女子大」下車
(上町、等々力、田園調布、弦巻営業所、二子玉川、高津営業所、成城学園、祖師谷大蔵、狛江、調布)
- ・目黒駅、祐天寺駅から：三軒茶屋行きを利用し「三軒茶屋」駅 下車
- ・北沢駅から：駒沢陸橋行きを利用し、「三軒茶屋」駅 下車

構内マップ



周辺マップ

